

シラバスデータ		
科目名	視能矯正学2	
年度	2025年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	・国家試験へ向けて視能矯正の知識を整理する。
学年	3年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	後期	・両眼視の成立から検査と評価・斜視弱視の病態と評価、治療
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	2単位	国家試験問題を正確に理解し、エビデンスを踏まえて確実に正答にたどりつく視能矯正の知識を身につける。
授業担当者	鈴木ほまれ	
実務家教員	○	大学病院・総合病院における視能訓練士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	視能学 第3版（文光堂）・眼科検査ガイド第3版（文光堂）	
評価方法	筆記試験による評価とする。	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	眼球運動	・外眼筋の解剖と作用 ・単眼眼球運動と両眼眼球運動の法則 ・AC/A比の測定方法と理解
2		
3	両眼視機能	・パナムの融像感覚圏の意義 ・両眼視の成り立ち ・網膜正常対応と網膜対応異常
4		
5	内斜視・外斜視	・内斜視の種類と臨床所見、治療 ・外斜視の種類と臨床所見、治療
6		
7	特殊斜視	・特殊斜視の種類と臨床所見、治療
8		
9	弱視	・弱視の病態 ・弱視の種類と治療
10		
11	検査結果の評価	・画像、データの読み取りと評価
12		
13		
14		
15		
16	定期試験	定期試験で知識を確認する。

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	ゼミナール3		
年度	2025年度	授業の目的・ねらい	
学科	視能訓練士学科	模擬試験を行い、現状の学力を把握する。 学生調書を作成することで臨地実習に備える。	
学年	3年	就職活動の準備を行い自ら行動できるように備える。	
コース	—	授業全体の内容の概要	
開講時期	通年	模擬試験の実施、学生調書の作成、就職活動の準備	
授業回数	30回		
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）	
取得単位数	2単位	模擬試験で自分の苦手な分野を発見し、克服できるようになる。 学生調書の作成することで、臨地実習での各自の到達目標を明確にし、自分の言葉で説明できるようになる。	
授業担当者	星野 貴大	模擬就職活動を通して自分自身の特性を	
実務家教員	○	総合病院・診療所における視能訓練士としての実務経験	
使用テキスト 参考文献	配布物		
評価方法	授業態度、出席率、課題提出による総合評価とする。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	実習定期	実習に使用する定期の申請を行う（3期分）	
2	履歴書作成	履歴書の清書を行う	
3			
4	個人調書作成	実習先に提出する調書を作成する	
5			
6	個人調書作成（FB）	記載した調書の返却と修正を行う	
7	就活支援	就職ルールや求人票の見方、SPI・適職試験について確認する	
8		履歴書や求人票をもとに模擬就職活動を行う（優先順位を明確にする）	
9			
10			
11			
12		グループでの面接練習を行う	
13			
14	臨地実習	実習日誌と症例の書き方について	
15			

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
16	症例検討準備	臨地実習で実際に経験した症例を用いて症例検討準備を行う
17		
18		
19		
20		
21		
22	国家試験の症例検討	視覚生理の症例検討を行う
23		
24		
25		
26		矯正学の症例検討を行う
27		
28		
29		
30		
31		検査学の症例検討を行う
32		
33	定期試験	定期試験と解答解説を行う

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	障害の理解		
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい	
学科	視能訓練士学科	・高次脳機能障害について学び、視覚機能を高次脳機能障害からアプローチし、医療現場における検査・訓練に繋げる	
学年	3年		
コース		授業全体の内容の概要	
開講時期	後期	・脳の障害部位における機能障害を理解し認知障害も含め、障害の原因・病態評価などを学習する ・高次脳機能障害における視覚機能への影響も学習する	
授業回数	8回		
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）	
取得単位数	1単位	・脳障害の原因・病態の理解 ・高次脳機能障害における視覚機能への影響の理解	
授業担当者	石田 麗		
実務家教員	○	障害者支援施設における介護福祉士としての実務経験	
使用テキスト 参考文献	適宜必要資料配布		
評価方法	・出席率(授業態度(グループワーク時も含む))5点、提出物(課題)評価45点 ・試験50点のトータル100点 A:80点以上、B:70～79点、C:60～69点、D:上記以外		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	オリエンテーション 高次脳機能障害概論	総論・概論	
2	高次脳機能障害の病態と評価1	失語・失行・失認・記憶障害	
3	高次脳機能障害の病態と評価2	注意障害・遂行機能障害・社会的行動障害	
4	高次脳機能障害 まとめ	まとめ(評価対象課題あり※提出必須)	
5	重複障害	複数の障害を併せ持つ状態	
6	発達障害	発達障害の特性	
7	脳血管障害	脳血管障害と視野	
8	試験	筆記試験	

シラバスデータ			2024/4/1
科目名	視能障害学演習2（網膜疾患）		
年度	2025年度	授業の目的・ねらい	
学科	視能訓練士学科	主訴から疾患を想定し検査を行うことで、これまでの知識を整理する。	
学年	3学年		
コース	—	授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	2人ペアになって疾患を想定した検査を行う。	
授業回数	15回		
授業形態	演習	授業修了時の達成課題（到達目標）	
取得単位数	2単位	主訴から考えられる疾患を挙げ、必要な検査を考えることができる。 必要な検査を適切な順番で検査できる。 疾患から予想される検査結果を考えることができる。	
授業担当者	青木 未来		
実務家教員	○	総合病院、眼科クリニックにおける視能訓練士としての実務経験	
使用テキスト 参考文献	視能学 第3版（文光堂）、標準眼科学第14版、眼科検査学ガイド第3版		
評価方法	定期試験で評価する。ただし、レポート未提出者は受験不可とする。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	症例1	2人ペアとなり、チュートリアルとして指定した疾患について以下の項目について考え、互いに検査実習を行う。 被検者は、①症例②主訴③必要な検査④検査における訴え（見え方・結果）を考える。 検者は、主訴から①考えられる疾患②診断に必要な検査③検査結果④治療方法を考える。 2時間の間に互いに被検者、検査者の両方を担当し必要な検査を完了することを目標とする。	
2			
3	症例2	2人ペアとなり、疾患を想定した検査を行う。 ※検者は症例1で行った疾患を被検者に必ず伝えて下さい。その上で、被検者は症例を決めること。 3時間の間に互いに被検者、検査者の両方を担当し必要な検査を完了することを目標とする。	
4			
5			
6	症例3	2人ペアとなり、疾患を想定した検査を行う。 ※検者は症例1、2で行った疾患を被検者に必ず伝えて下さい。その上で、被検者は症例を決めること。 3時間の間に互いに被検者、検査者の両方を担当し必要な検査を完了することを目標とする。	
7			
8			
9	症例4	2人ペアとなり、疾患を想定した検査を行う。 ※検者は症例1、2、3で行った疾患を被検者に必ず伝えて下さい。その上で、被検者は症例を決めること。 3時間の間に互いに被検者、検査者の両方を担当し必要な検査を完了することを目標とする。	
10			
11			
12	症例5	2人ペアとなり、疾患を想定した検査を行う。 ※検者は症例1、2、3、4で行った疾患を被検者に必ず伝えて下さい。その上で、被検者は症例を決めること。 3時間の間に互いに被検者、検査者の両方を担当し必要な検査を完了することを目標とする。	
13			
14			
15	定期試験	定期試験にて各検査の原理、評価方法、適応を理解しているか確認する。その後、解説を行う。	

シラバスデータ		
科目名	視能障害学演習1（両眼視）	
年度	2025年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	主訴から疾患を想定し検査を行うことで、これまでの知識を整理する。
学年	3学年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	前期	2人ペアになって疾患を想定した検査を行う。
授業回数	15回	
授業形態	演習	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	視能障害学演習1（屈折）と併せて4単位	主訴から考えられる疾患を挙げ、必要な検査を考えることができる。 必要な検査を適切な順番で検査できる。 疾患から予想される検査結果を考えることができる。
授業担当者	鈴木　ほまれ	
実務家教員	○	大学病院・総合病院における視能訓練士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	視能学　第3版（文光堂）、視能矯正学　第3版（金原出版）	
評価方法	定期試験で評価する。ただし、レポート未提出者は受験不可とする。	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	症例1	〈時々、片眼が外側に外れる〉 2人ペアとなり、疾患を想定した検査を行う。 ※検査の順番、意義を考えながら行う。
2		
3	症例2	〈遠見より近見眼位が大きい内斜視〉 2人ペアとなり、疾患を想定した検査を行う。 ※検査の順番、意義を考えながら行う。
4		
5	症例3	〈ごくわずかな斜視（固視交代不可）〉 2人ペアとなり、疾患を想定した検査を行う。 ※検査の順番、意義を考えながら行う。
6		
7	症例4	〈一眼の視力不良がある斜視〉 2人ペアとなり、疾患を想定した検査を行う。 ※検査の順番、意義を考えながら行う。
8		
9	症例5	〈複視の訴えがあり眼球運動障害が疑われる斜視〉 2人ペアとなり、疾患を想定した検査を行う。 ※検査の順番、意義を考えながら行う。
10		
11	検査練習	・Hirschberg法、Krimsky法、遮閉試験、網膜対応検査の手技の確認を2人ペアで行う。 ※検査の順番、意義、説明を考えながら行う。
12		
13		
14		
15	定期試験	定期試験にて各検査の原理、評価方法、適応を理解しているか確認する。

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	視能障害学演習1(屈折)		
年度	2025年度	授業の目的・ねらい	
学科	視能訓練士学科	主訴から疾患を想定し検査を行うことで、これまでの知識を整理する。	
学年	3学年		
コース	—	授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	2人ペアになって疾患を想定した検査を行う。	
授業回数	15回		
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
取得単位数	視能障害学演習1(両眼視)と併せて4単位	主訴から考えられる疾患を挙げ、必要な検査を考えることができる。 必要な検査を適切な順番で検査できる。 疾患から予想される検査結果を考えることができる。	
授業担当者	太田 陸		
実務家教員	○	大学病院・総合病院における視能訓練士としての実務経験	
使用テキスト 参考文献	視能学 第3版(文光堂)、屈折異常とその矯正 改訂第7版(金原出版)		
評価方法	定期試験で評価する。ただし、レポート未提出者は受験不可とする。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	症例1ーA	2人ペアとなり、疾患を想定した検査を行う。 被検者は、①症例②主訴③必要な検査④検査における訴え(見え方・結果)を考える。 検者は、主訴から①考えられる疾患②診断に必要な検査③検査結果④治療方法を考える。	
2			
3	症例1ーB	2人ペアとなり、疾患を想定した検査を行う。	
4			
5	症例2ーA	2人ペアとなり、疾患を想定した検査を行う。 ※検者は症例1で行った疾患を被検者に必ず伝えて下さい。その上で、被検者は症例を決めること。	
6			
7	症例2ーB	2人ペアとなり、疾患を想定した検査を行う。	
8			
9	症例3ーA	2人ペアとなり、疾患を想定した検査を行う。 ※検者は症例1、2で行った疾患を被検者に必ず伝えて下さい。その上で、被検者は症例を決めること。	
10			
11	症例3ーB	2人ペアとなり、疾患を想定した検査を行う。	
12			
13	検査練習	・他覚的屈折検査、自覚的屈折検査、調節機能検査の手技の確認を2人ペアで行う。	
14			
15	定期試験	定期試験にて各検査の原理、評価方法、適応を理解しているか確認する。	

シラバスデータ		
科目名	眼疾病学各論	
年度	2025年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	眼科の疾患について、基本的な知識を身につける
学年	3学年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	後期	眼科疾患及び眼科関連全身疾患について学習し、疾患の名称、病態を理解した上で国家試験過去問を解けるようにする。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位	一般的な眼科疾患の名称、病態を理解する
授業担当者	星野 貴大	
実務家教員	○	総合病院・診療所における視能訓練士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	視能学 第3版(文光堂)、標準眼科学(第14版)(医学書院)	
評価方法	筆記試験により評価する。	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	眼 瞼	眼瞼疾患について試験問題を解く。
2	眼 瞼	
3	角結膜・強膜	角結膜・強膜について試験問題を解く。
4	角結膜・強膜	
5	眼房・隅角	眼房・隅角について試験過去問を解く。
6	眼房・隅角	
7	水晶体・硝子体	水晶体・硝子体疾患について試験過去問を解く。
8	眼窩・涙腺・涙道	眼窩・涙腺・涙道について試験問題を解く。
9	ぶどう膜	ぶどう膜疾患について試験過去問を解く。
10	ぶどう膜	
11	網 膜	網膜疾患について試験過去問を解く。
12	網 膜	
13	腫瘍/外傷/全身と眼	腫瘍/外傷/全身と眼疾患について試験過去問を解く。
14	腫瘍/外傷/全身と眼	
15	筆記試験と解答解説	筆記試験と解答解説を行う。

シラバスデータ		
科目名	国家試験対策	
年度	2025年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	国家試験過去問題・オリジナル問題を解くことで、国家試験に合格する力をつける。
学年	3学年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	前期・後期	前期：模擬試験(国家試験過去問題)と解説 後期：模擬試験(オリジナル問題)と解説
授業回数	60回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	4単位	国家試験に合格できる知識と思考を身に付ける。
授業担当者	鈴木 ほまれ・星野 貴大 太田 陸・永井 理一郎	
実務家教員	○	眼科クリニック・総合病院における視能訓練士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	国家試験過去問題、視能学(第3版)、標準眼科学、眼科検査ガイド	
評価方法	前期模擬試験40%、後期模擬試験60%で総合的に評価する。模擬試験結果は素点、得点率を掲示する。	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1・2・3	模擬試験①	国家試験過去問題から出題
4・5・6	解答解説	重点問題を解説
7・8・9	模擬試験②	国家試験過去問題から出題
10・11・12	解答解説	重点問題を解説
13・14・15	模擬試験③	国家試験過去問題から出題
16・17・18	解答解説	重点問題を解説
19・20・21	模擬試験④	国家試験過去問題から出題
22・23・24	解答解説	重点問題を解説
25・26・27	模擬試験⑤	国家試験過去問題から出題
28・29・30	解答解説	重点問題を解説
31・32・33	模擬試験⑥	
34・35・36	解答解説	重点問題を解説
37・38・39	模擬試験⑦	
40・41・42	解答解説	重点問題を解説
43・44・45	模擬試験⑧	
46・47・48	模擬試験⑨	
49・50・51	解答解説	重点問題を解説
52・53・54	模擬試験⑩	
55・56・57	模擬試験⑪	
58・59・60	模擬試験⑫	

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	基礎視能矯正学5		
年度	2025年度	授業の目的・ねらい	
学科	視能訓練士学科	・眼科医師や視能訓練士が関わる眼科一般検査を学ぶ。	
学年	3年		
コース	—	授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	・種々の眼科一般検査の原理と目的を学習する。また、それぞれの機器の検査結果の分析、評価の方法を学ぶ。また、検査結果から眼疾病を同定できる専門的知識の理解を身につける。	
授業回数	15回		
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)	
取得単位数	2単位	・種々の眼科検査の原理と機能を理解する。 ・眼科の専門職としての自覚と、職業倫理を理解する。 ・検査結果を分析・評価し、眼疾病と結びつけて理解する。	
授業担当者	星野 貴大		
実務家教員	○	総合病院における視能訓練士としての実務経験	
使用テキスト 参考文献	視能学 第3版(文光堂)・眼科検査ガイド第3版(文光堂)		
評価方法	授業態度、出席率、筆記試験による総合評価とする。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	外眼部検査	瞼裂幅測定・眼瞼挙筋検査・眼球突出度検査について学ぶ	
2		対象疾患について学ぶ	
3	前眼部検査	細隙灯顕微鏡検査、涙液検査について学ぶ	
4		隅角検査・角膜内皮検査・角膜知覚、レーザーフレアメーターについて学ぶ	
5		角膜形状解析、前眼部OCTについて学ぶ	
6		前眼部の対象疾患について学ぶ	
7	眼圧検査	眼圧検査の種類と特徴について学ぶ	
8	眼底検査	眼底写真の原理と検査所見について学ぶ	
9		OCTの原理と検査所見について学ぶ	
10		蛍光眼底造影検査の基本知識と読影の仕方について学ぶ	
11	眼窩画像検査	X線・CT・MRIの撮像原理と読影、対象疾患について学ぶ	
12	眼軸長検査	A・Bモード、非接触眼軸長検査について学ぶ	
13	検査機器について	検査機器の規格・安全管理、メンテナンスについて学ぶ	
14	定期試験と解答解説	定期試験と解答解説を行う	
15	まとめ	全体の振り返り	

シラバスデータ		2025/4/1
科目名	視覚リハビリテーション	
年度	2025年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	障害受容の心理や地域社会におけるリハビリテーション職種としての役割について理解する。
学年	3年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	後期	・リハビリテーション職種である視能訓練士が担う保健医療福祉の推進について学ぶ。 ・視能訓練士が知っておくべき障害受容の心理や地域社会におけるリハビリテーション職種としての役割について理解する。 ・ロービジョンケアの具体的な手法について学ぶ。
授業回数	8回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	1単位	・視覚障害の定義と範囲について説明できる。 ・ロービジョンケアにおける視能訓練士の役割を理解できる。 ・視覚補助具の使い方を説明できる。 ・拡大鏡の選定の方法や計算が出来る。
授業担当者	太田 陸	
実務家教員	○	診療所における視能訓練士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	視能学第3版(文光堂)	
評価方法	授業態度、出席率、テストによる総合評価とする。	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	ロービジョンの定義	ロービジョンの定義、障害程度等級について学ぶ。
2	視覚障害の推移と原因	視覚障害の推移と原因について学ぶ。
3	リハビリテーション	リハビリテーションについて学ぶ。
4	拡大鏡・単眼鏡	拡大鏡・単眼鏡について学ぶ。
5		拡大鏡・単眼鏡の計算について学ぶ。
6	視覚補助具・日常生活用具	視覚補助具・日常生活用具について学ぶ。
7	ロービジョン者の誘導	ロービジョン者の誘導について学ぶ。
8	筆記試験	筆記試験を行う。